

## 第2章 本市の概況

## (1) 本市の歩み

昭和26（1951）年に青梅町、調布村、霞村が合併して「青梅市」が誕生し、昭和30（1955）年には隣接する吉野村・三田村・小曾木村・成木村の4か村が編入されました。

伝統的な基幹産業であった織物業や林業は構造不況によって衰退し、代わって、戦後の急速な復興と高度経済成長の流れを受け、東京近郊の定住や産業の受け皿として急速に都市化が進みました。

昭和40年代に羽村町（現：羽村市）にまたがる50万坪に及ぶ広大な西東京工業団地が造成され、昭和54（1979）年には三ツ原工業団地が完成し、市内各地に散在していた既存工業の集団化が進められ、産業拠点が形成されています。

近年では、行政運営・災害対策の拠点となる市庁舎や生涯学習・交流活動の拠点となる青梅市文化交流センター、令和5（2023）年には市立青梅総合医療センター新病院本館の開院など、市民生活を支える拠点施設が整備されています。

平成21（2009）年には市内の梅の木に、ウメ輪紋ウイルス\*の発生が確認され、平成26（2014）年までに約4万本もの梅の木が伐採されましたが、市民、事業者、行政が一丸となって梅の里再生に取り組み、令和3（2021）年度から市内全域で梅の木の再植樹が可能となりました。

## (2) 人口

令和7（2025）年1月1日時点の人口は129,105人、世帯数は66,053世帯です。人口は昭和30年代の5万人台から増加を続け、平成17年11月には最も多い140,922人となりましたが、平成20年代に入り減少に転じています。

なお、年齢別人口は年少人口と生産年齢人口の割合が減少、高齢人口割合が増加し、高齢化が進んでいます。

また、青梅市人口ビジョン\*（令和5（2023）年3月）の将来展望の人口推計では、目標年次である令和17（2035）年の人口は約11万人台と推計されています。

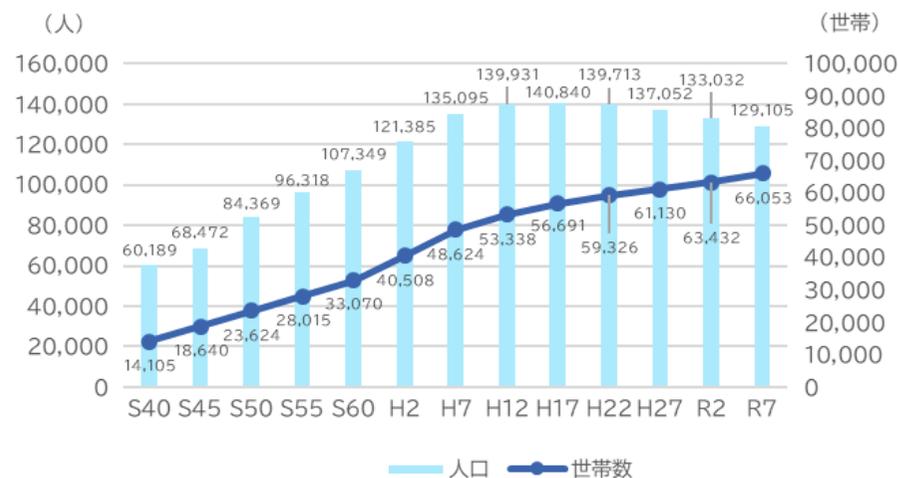


図 2-1 人口と世帯の推移  
資料：住民基本台帳（1月1日）

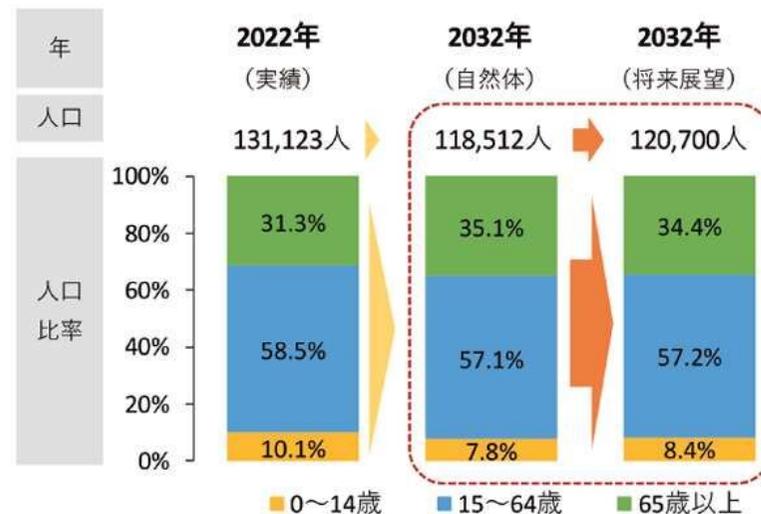


図 2-2 将来人口推計  
資料：第7次青梅市総合長期計画

### (3) 土地利用

本市は、東京都の北西部、都心から40～60kmに位置し、東西に17.2 km、南北に9 km、総面積103.31km<sup>2</sup>で、市域の6割以上を山林が占めています。

北は、埼玉県飯能市、東は、埼玉県入間市、瑞穂町、羽村市、南は、あきる野市、日の出町、西は奥多摩町に接しています。

市の中央部には多摩川が西から東へ流下し、この多摩川沿いと市東部の扇状地などは市街化区域\*に指定されています。また、市街地には住居や商業、工業などの秩序ある土地利用がなされており、生産緑地\*などの農地も存在しています。

また、市街化調整区域\*のほとんどが森林ですが、自然環境の保全・活用、農林業的土地利用の維持・保全など、地域の特性に応じた土地利用がなされています。



図 2-3 土地利用方針  
資料：第7次青梅市総合長期計画

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

資料